

大妻女子大学茶道部 平成二十二年度 雪待茶会

茶道部だより
※
第七号



大妻庵

今年の添釜茶会にて。テーマが「月」ということで、風炉先屏風は遠山です。

「あいさつ」
本日は、お忙しい中、大妻女子大学茶道部の雪待茶会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。
今年の雪待茶会は、例年通り一年生の立礼席と上級生の広間席の二席を用意させて頂きました。
毎年のことでございますが、このように靖国神社の「洗心亭」でお茶会が出来ることを、部員一同大変光榮に思っております。
また、これからも長年続いてきた茶道部の伝統を守りながら、より一層稽古に励んでまいりたいと思っております。至らない点もあると思いますが、楽しんでいただけたら幸いです。
雪待係 井口 知織

2010. 12. 12
【発行】
大妻女子大学
茶道部
【発行責任者】
倉島 緑
稲岡優美子

※正しくは『第八号』です。

雪待茶会

「雪待茶会」とは、年に一度、靖国神社境内のお茶室をお借りして催す茶会です。「雪はまだかな」と待っているこの季節に合わせ、昭和五十一年に「雪待茶会」と呼び名がつき、今年で三十四年が経ちます。雪待茶会は立派なお茶室で行われ、文化祭などの茶会とは違った雰囲気があります。

今回の茶会には、洗心亭にて下級生が立礼を、上級生が広間で、それぞれお茶席を設けております。ぜひ、お好きなお席からお入りください。

大妻女子大学茶道部は昨年、創立六十周年を迎え、本年は六十一年目になります。今まで先輩方が大切にしてこられた伝統をしっかりと受け継ぐと共に、今年からまた新たな気持ちで、多くのお客様に喜んでいただけるような茶会をと、この日のために頑張っていました。皆様にお楽しみをありがとうございました。幸いです。

先生方からのお言葉

私たちが日頃お世話になっている先生方に、大変ご多忙な中、執筆していただきまして、心温まるお言葉をいただきました。本当にありがとうございます。



千代田校師範

浅賀 宗容

雪待茶会を迎えて

今年の立礼席には、掛物として、「無事」をかけさせていただきました。禅語からきたことばですが、「無事」とは何事もないこと、今年一年何事もなく過ぎました。どうか、来年も無事息災でありませうようにと言う意味で茶席では十二月によくかけられます。

私たちは常に平穩無事を願っていますが、「無事」であり続けるのはなかなか容

易なことではないと思います。病気になるったり、事故にあつたり、喜びや悲しみを経て今日があります。年を重ねれば、重ねるほど、現在の「無事」を有り難く思います。

「無事」とは何事もない、何事も起こらない意味ではございますが、そこにたどりつくまでのさまざまな難関、紆余曲折を一つ一つ乗り越えたあとの喜びという意味があるといえます。大妻茶道部は六十一回目の雪待茶会を迎えました。六十という、人でいえば還暦という大きな山を乗り越え、今年、六十一年を迎えました。創設からこれまで、さまざまな出来事と向き合いながら、茶道部を守ってこられた先輩の方々に感謝し、今年からまた新たな気持ちでスタートできた喜びを感じます。「無事」ということばの意味を大切に思い、多くの人に喜ばれる茶会を続けていきたいと思えます。



千代田校顧問

大森 正司

茶と心

今、生活様式は大きく変わりました。その昔、日本の多くの家庭では、六〇八畳一間に家族四人が住み、ココが生活の全てでした。

ご飯を食べるときには卓袱台(ちゃぶだい)を出して、みんなで食べ、夜寝るときには、この卓袱台を片付けて布団を敷き、川の字になって寝ていました。当然、親は子どもの寝顔を見ますが、子供も親の寝顔を普段に見ていました。色々な生活が共に行われるところから、子供は常に親の後姿を見て育つことにもなります。

つまり、子どもは良しに付け、悪しきにつけ、親の「まね」をして育ちます。

「種をまいて水やって、芽がでて花咲いて♪・・・」かつて、こんな歌が子供たちの間に流行ったことを記憶して

います。また、子供が成長する過程では、子供は何事につけ、親の真似をします。「マ」とか「パー」とか、親のいうことをくり返し聞いてはマネをし、やがては記憶として残って自分のものになります。

茶の湯のお点前を例にとると、お師匠さんのお点前を熱心に見ていて、後で再現しようとしてもうまくいかない。うまくいかせるためには、繰返して練習するのが普通です。茶道の稽古においても、師匠の行動をよく見てその通り行い、反復練習して無意識にでも正しい動作ができ

るようにすることが大切で、この動作がスムーズに流れるように出来るようになる。このとき、初めて和敬静寂という茶の心の理解ができたこと、茶道を会得したことになる。つまり、形から入って心に至るといって、茶道の道を探ることができた証でもあると考えられます。

そうであればこそ、生活の中心にしっかりと茶を置くこと、生活する心の中にしっかりと「茶の間」を置くこと、茶と心のいい関係の構築できることを、今更のように実感されるものです。

茶道部の沿革

- 一九四九年 茶道部創立。師範に柳澤宗淵先生を迎える
- 一九六六年 茶室「大妻庵」が誕生
- 一九七九年 柳澤宗淵先生が引退。齋藤宗雅先生を迎える
- 一九八九年 創立四十周年を迎え、「茶道部だより」を創刊
- 一九九〇年 校舎改築によりC棟地下一階に大妻庵が復元
- 一九九四年 創立四十五周年を迎え「茶道部だより」を刊行
- 一九九九年 創立五十周年を迎え、「茶道部だより」を刊行
- 二〇〇三年 齋藤宗雅先生が引退。浅賀宗容先生を迎える
- 二〇〇四年 創立五十五周年を迎え「茶道部だより」を刊行
- 二〇〇八年 大妻学院創立百周年記念雪待ち茶会を催す
- 二〇〇九年 創立六十周年を迎え、「茶道部だより」を刊行
- 又、記念セレモニー、中高合同茶会を催す
- 二〇一〇年 創立六十一周年を迎え、現在に至る

活動報告

【不審庵春季短期講習会】

OG 山口茉莉奈

ごきげんよう。去る二月二十八日から三月六日まで春期講習会へ参加させていただきました。私に務まるものかと不安で一杯でしたが、年代を同じくする仲間たちとの規律正しい生活の下、たくさん勉強をして参りました。また、主任教授に小笹晃先生、助教教授に菅田浩行先生、渡辺泰一朗先生について頂きました。

講習会での一日の主な流れは以下のものです。
朝五時半に起床をします。六時から約一時間勤行と法話があり、その後七時から各班に分かれて三十分間の清掃並びに朝食の用意をし、七時半から朝食をとり、片づけめます。八時から着物を着つけ稽古場の当番は皆より早く稽古場の用意に向かいます。九時から途中一回の点出しを入れ十二時まで稽古をします。(ここでの稽古は全て薄茶。所役は点前、正客、次客の三役で自分が役についていないとき

は他の人が稽古をつけて貰うのを見る形になります) 十二時から昼食をとり十三時から午前と同じく一回の点出しを挟み十七時まで稽古をつけて頂きます。稽古が終わると素早く着物を脱ぎ食事当番は夕食の用意へ向かい、それ以外の人は今日の稽古のおさらいをします。十八時から夕食、片づけ、十八時半から二十時まで今日一日の稽古の総ざらいを一同で行い、その後各班ごとに順次入浴、二十一時半には消灯をします。

以上が簡単な一日の流れで、これら合宿生活にはすべて内弟子さんがついて寝食を共にします。稽古以外にも三八稽古の見学、楽美術館見学、大徳寺参拝、先生方の講話などがあり一週間丸々ひたすら茶に打ち込みます。ここでは生活全てが稽古でした。

先ほどから稽古稽古と申しておりますが私が参加をして感じたのは稽古といつても点前の技術を向上させるための稽古ではなく「茶」というものにどう向き合い、どう捉え、いかにして表現するかを学ぶ場だったのではないかという事です。私

にはこの一週間の感動をうまく言葉に出来ません。また言葉に出来ない、参加をして肌で感じるしかない事の方が多かったとも思っています。ただ、そこで得たものを日々の稽古に生かしこれからも励んでいきたいと思っております。

長いようでとても短い一週間でした。先生方は口をそろえて「自ら学ぼうとしなければここでは何も学ぶことはできないけれども学ぼうと思えばいくらでも学べる」と仰ったように全てが稽古で毎日が勉強でした。この一週間で学んだこと全てが私の宝物です。このような機会を与えてくださった家元、関係者皆様、浅賀先生、全ての方々には心から感謝しております。どうもありがとうございます。

【つくら茶会】

増川 彩織

昨年度の桜茶会は、一階昇降口前にて行われました。私たち二年生にとつて着物で点前をするという体験が初めてだったため緊張しました。また、昇降口前ということもあり、人の出入りが激しく、自動ドアが開く

たびに季節外れの強く冷たい風が私たちを直撃し、棗の上に置いた茶杓がくるくると風車のように回っていました。まるで、吹雪の中で「うおおおお！」と叫びながら点前をしているようでした。客席は風が一切当たらないところに置いていたため、亭主だけが吹雪のなかという状態。悴んだ手がいふことをきかず、上手く茶を点てられないのではないかと不安になりましたが、お客様に「おいしかったよ！ 来年も来るね！」というお言葉をいただき、私たちはほっとし、そして心がほっこりしました。

【新入生歓迎茶会】

宇佐美 智子

色々な部活を見学して、ゆつくりと入部する団体を決めようと思ひ、何気なく友人に誘われた茶道部の新入生歓迎会に参加しました。静かな空間、緊張感のある雰囲気、普段見慣れない器や道具など、古いならわしが新鮮に感じると共に、先輩方の話し方や美しい姿勢、お茶を点てる姿、お茶を運ぶ姿、その時に見た動作の

ひとつひとつに感動しました。日々の生活の中ではこのような美しい動作をすることはなく、茶道部に入部させていただくことで、自分の世界を広げる良いきっかけになると考えたため、道の世界であった茶道部へ入部することを決めました。今まで関わったことのない世界でしたが、これから茶道について知りたいという気持ちでいっぱいです。

【夏合宿】

稲岡 優美子

ごきげんよう。八月二日から二泊、京都へ夏合宿に行つてまいりました。お茶工場や不審庵の見学など、多くの貴重な体験をさせていただきました。

丸久小山園のお茶工場見学では、抹茶は沢山の人の



労力と時間の結晶だということを知り、稽古で美味しくお茶をいただけること、有り難さに胸が熱くなりました。そして不審庵見学では、お茶の原点に触れることを嬉しく思うと同時に、自分の勉強不足に身の引き締まる思いがしました。この合宿で学んだことを今後の稽古で活かし、お客様に喜んでいただけるようなおもてなしができるように精進していきたく思います。

【朝茶会】

中川 洋子

十月三日、大妻女子大学和室・茶室にて朝茶会が行われ、茶道部OBである先輩二名がいらしてくださいました。入部してから初めてのお茶会ということで、半東の斎藤と共に緊張した状態で臨みました。

茶会では、先輩方が和やかな雰囲気を作ってくださいました。大きなミス



をすることなく、おもてなしをすることができました。緊張している中でも、普段の稽古内で練習した成果が少しずつ体に身に付いていると実感することができました。これからも毎回の稽古を大切に、真剣に取り組むことでより良いおもてなしができるように努力いたします。

最後に、毎回の稽古でご指導くださった浅賀先生・先輩方に深く感謝申し上げます。

【大妻祭 添釜茶会】

中村 真澄

今年の大妻祭添釜茶会は十月二十三日、二十四日に行われました。文化祭係りは当日までに茶券やお菓子を用意し、事務的な手続きを行います。そして当日は

中心となつて茶会が滞りなく進むよう気を配り、茶会後の反省会も行っています。今年も昨年同様、下級生による広間と、上級生による大妻庵の二席を設けました。広間は新しくしていた畳で下級生が初めて一般のお客様にお茶をお出しました。来ていただいたお客様を精一杯おもてなしするため、部員一同稽古に励んで参りましたが、下級生は初めての茶会ということもあり、戸惑うことも多くあつたようです。

今年も想定していたよりも多くのお客様が足を運んで下さり、大変嬉しく思います。今後も日々の稽古に励み、お客様に楽しんで頂けるような茶会を行えるよう努力していきたく思います。



年間行事

一月

初釜茶会
師範の浅賀先生にお濃い茶を点てていただきます。一年の始まりとともに新しい茶道部がここから始まります。

二月

送別会
茶道部の卒業式。この時に上級生は浅賀先生からおゆるしとお免状をいただきます。

三月

さくら茶会
千代田区主催のさくらまつりの一環として開催されるさくら茶フェスティバルに参加させていただきます。

四・五月

新人生歓迎茶会

新入生に茶道の楽しさに触れてもらい、興味を持ってもらえるよう、お茶会を催します。

八・九月

夏合宿・朝茶会

昨年度卒業された先輩を招待して催す「朝茶会」、学園祭に向けて、強化合宿を行います。

十月

大妻祭 初釜茶会

学園祭の一環として行われるお茶会。毎年大勢の方が来てくださいます。

十二月

雪待茶会

靖国神社で行う学外茶会で、普段行う茶室とはまた違った雰囲気の中、身を引き締めて行います。

今年を振り返って

【部長】 三橋 彩加

今年一年間、部長と言う大任を任せていただいて、私自身とても良い勉強になりました。こんなダメダメな部長でも問題も無く一年を終えることが出来ましたのは部員の皆の協力のおかげだと思います。私が引つ張ると言うよりは、私が部員の皆の後を追っていたような形ではありましたが、本当に有難うございました。

役職の反省と言う事ですが、特にこれと言って自分が行った仕事があるわけでもありませんし、反省すべき点が多すぎてここでは書ききれないので後で個人的に猛反省をしておこうと思います。

最後に部員の皆、特に副部長の増川さん、前副部長の倉島先輩には並々ならぬご迷惑をおかけしました事をこの場を借りて御礼、お詫び申し上げます。

【副部長】 増川 彩織

一年を振り返ると、このスペースでは書ききれない

ほどのことを経験し、また多くの人と出会い、毎日が勉強の日々でした。

我が茶道部は、部員同士仲が良いだけでなく、駄目なところは駄目だと注意し、支え合える素晴らしい人たちばかりで、この人たちと一緒に大好きな茶道をすることができて幸せに思っています。そんな皆を支える役目の副部長ですが、皆に支えられたばかりで役立たずだったなあと反省しています。また、部員に「稽古中の増川さんは厳しくて怖い」と何度も言われてしまいました。これからはもう少しみんなに優しくできるように努めます(笑)

【会計】 稲岡 優美子

この一年間、会計という責任あるお仕事をさせていただきまして、本当にありがとうございました。

自分でも稼いだことのない私にお金を扱う仕事が務まるのかどうか不安でしたが、皆様のおかげで無事に一年を終えることができました。いつも支えてくださった前

会計の倉島先輩、こちらからお声かけする前に部費を持ってきて下さった部員のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。

収支の記録をつけておりますと、お金が入ったり出たりすると同時に、茶道部にプレゼントしたりプレゼントしてもらったりしているのかもしれないと思えます。部員から集めた部費でお道具を購入し、そのお道具で稽古をすることで自己を鍛え、その精神は先輩から先輩へと受け継がれていきます。この流れの繰り返しは部員の成長であると共に、茶道部の成長であり、財産でもあると思うからです。

茶道部は今年で六十一年目を迎え、新しい一歩を踏み出しました。部員一人ひとりが自分を磨き、居心地の良い空間がこれからも続いていきますよう、しっかりと次へ引き継いでまいりたいと思います。

【庶務・渉外】 榎谷 雅美

私は、主に他大学へお茶会のお知らせや年賀状などを作成し、送る仕事をして

今年度の添釜茶会では、後輩が他大学との交流を活性化行ってくれたという点もあり、例年よりも多くの大学から来ていただきました。部員が少なく、大変なこともあります。来年も大切で、やりがいのある仕事だと思えます。

また、例年では添釜茶会・雪待茶会のご案内を送らせていただいておりますが、来年度からは新たにさくら茶会のご案内もさせていただきます。

まだまだ至らぬ点は多々あると思いますが、より良い茶道部にしていくためにも頑張っていくますので、これからも御指導・御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

【下級生】 齋藤 歌奈子
茶道部に入部して

私は、茶道部に入部したのが他の同期生より遅く、かなり不安がありました。入部してからしばらくは、点前を覚えたり飲み方を覚えたりと覚えることに追われ、正座をずっとしているのにも苦痛を感じていました。しかし、道具の名称やその意味、身のこなし方な

ど茶道の深い部分まで理解してくると、もっと茶道を学んでいきたいという思いが強くなってきました。正座もこなす分だけ、慣れていきました。また、茶道を学ぶことによって自己を高められ、結果内面の充実にも繋がることになりました。まだまだ精進を重ねていく身ですが、部活の皆とともに協力して茶道の道を究めていきたいと思えます。

来年度役員紹介

来年度の役員が決まりましたので、ここにお知らせいたします。今後とも大妻女子大学茶道部をよろしくお願ひ申し上げます。

部長	増川 彩織
副部長	三橋 彩加
会計	中川 洋子
庶務 渉外	井口 知織
文化祭係	宇佐美 智子
雪待係	大崎 美紀
合宿係	伊熊 綾子
	齋藤 歌奈子

お茶会のご案内

さくら茶フェスティバル さくら茶会

千代田区主催のさくらまつりの一環として開催されるさくら茶フェスティバルにて、さくら茶会を催す運びとなりました。今年初の試みとして広間で薄茶席と大妻庵での濃茶席を設ける予定です。皆様お誘いあわせの上、ぜひお越しく下さいませ。

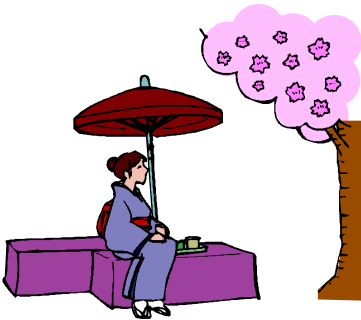
・日時 平成二十三年三月二十六日(日)
十一時から十六時十五分まで受付

・場所 大妻女子大学地下一階
アトリウム奥 和室・大妻庵

・内容 広間 薄茶席
小間 濃茶(予定)

・席料 五〇〇円(予定)

※詳細等は決定次第、ホームページにてお知らせいたします。



ブログ「妻茶びより。」

昨年度の大妻女子大学茶道部六十周年を機に、ホームページを開設しました。未公開のコンテンツもあります。が、部員が書いてあるブログ「妻茶びより。」では普段の稽古の様子、御茶会のお知らせなど、随時更新中です。ぜひチェックしてみてくださいね。

URL : <http://otsumasadou.web.fc2.com/index.html>

校章紋入り 袱紗の販売

本学茶道部の茶会でお馴染みの大妻校章紋入りの袱紗を一枚六千円(送料込み)にて販売いたします。購入を希望される方は、お葉書またはメールでお問い合わせください。料金の振り込みに関してもその際にご連絡いたします。また、在庫がない場合は発送にお時間をいただく場合がございます。ご了承ください。

送料 一枚六千円
宛先 〒102-0075

東京都千代田区三番町十二番地
大妻女子大学茶道部 袱紗係
Mail otsumasadou@yahoo.co.jp

《編集後記》

五年ごとに発行していたこの茶道部だよりを今年から毎年発行することになりました。戸惑うばかりでしたが、皆様のお陰で無事に完成させることができました。この新聞によります。この新聞によって大妻女子大学茶道部を少しでも皆様に知って頂けたら幸いです。

最後に、お忙しい中、ご指導ご協力いただきました浅賀先生、大森先生および部員の皆様に厚くお礼申し上げます。

発行日 平成22年12月13日(日)
発行者 大妻女子大学茶道部
〒102-0075 東京都千代田区三番町12番地
責任者 倉島 緑
編集者 稲岡優美子
Mail otsumasadou@yahoo.co.jp
HP <http://otsumasadou.web.fc2.com/index.html>